事例No.	2594
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	企業組合ごめんシャモ研究会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・地域運営組織

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

企業組合ごめんシャモ研究会

出典

平成27年度ふるさとづくり大賞事例集

企業組合ごめんシャモ研究会　高知県南国市

概　要

南国市を元気にしたいとの思いで集まった市民有志が、南国市才谷地区が坂本龍馬先榮の地であること、龍馬が好物のシャモ鍋を用意させていたときに刺客に襲われ食べ損ねてしまったことなどを知り、「坂本龍馬が食べ損ねたシャモ鍋」で市を活性化しようと、シャモの飼育からスタート。現在ではシャモ肉の出荷の他、商品開発を行う等、新しい名物として「シャモ」料理の普及及び地域活性化に取り組んでいる。



評価された点

・通常この手の活動は補助金での開発が主だが、有志の思いが地域のブランド構築につながっている。
・有志による自主活動として開始している。シャモ料理を資源に地域での雇用を作るとともに、南国市のブランディングに寄与している。
・何もなかったところから坂本龍馬が食べ損ねたシャモ鍋という歴史からシャモでの地域活性化を目指し、飼育からはじめ、現在の状況まで発展させた点は評価できる。
・シャモに着目し、地域のいろいろな人々を巻き込みながら展開し、現在では地域の複数の飲食店でのメニュー化に成功。今では名産の一つに数えられるようになった。まさに資源化の好例であり、地域づくりの可能性を実感できる取り組み。



唐津街道姪浜まちづくり協議会　福岡県福岡市

概　要

姪浜地域では、福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションの増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつある中で、地域の歴史的資産の重要性に気づいた市民有志が中心となって、地域住民を巻き込みながら『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進している。



評価された点

・行政や団体に依存せずに自発的な市民活動を進めている点が高く評価できる。個々の力を生かしている点もすばらしい。
・独自性はあまり感じられないが、多岐にわたり堅実に活動を展開している点が評価できる。
・景観保全は極めて厳しい社会状況下において、広い世代との連携活動は地域にしっかり根を下ろしている。活かしつつ、残しながら更に蘇らせる手法の工夫等期待したい。
・地域にあるものを資源として現代に活かして精力的に活動が行われている。
・いわゆる「よそもの」「若者」「ばかもの」の力を借りて、多彩なイベントを次々に打ち出し、それがメディア等で報じられたり、賞を受けたりすることで、さらに動きが加速、もっと「楽しいことをやろう」、「まちを盛り上げよう」という意欲向上につながり、まちおこしの”熱”がどんどんと高まっている感じがする。

